教育研究業績書

2024年05月20日

所属： 看護学科　　資格： 助教（臨床）　　氏名： 藤田　安沙貴

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	術後疼痛、看護教育
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院博士前期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.術後患者の関連図作成・看護上の問題の抽出に関する講義	2022年4月19日	武庫川女子大学看護学部講義科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目、3年次、必修1単位）第2回目において実践した。小グループに分かれて事例患者の関連図作成・看護問題の抽出に関するディスカッションを行い、資料を提示しながら取りまとめを行った。
2.事例における術後観察演習の実践	2020年7月7日	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学（急性期）実習」（専門科目、3・4年次配当、必修3単位）で16名の学内実習において実践した。術後観察時に必要な観察項目を理解し、優先度を考えて手順よくできるよう、胃切除後の患者を想定したモデル人形を用いて実際に観察や声かけを行った。起こりうる術後合併症の症状や発症時期について資料を作成し、説明を行った。
2 作成した教科書、教材		
1.臨地実習における事前学習課題の作成	2022年9月	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目、3年次配当、必修3単位）において資料作成した。全身麻酔と疾患・術式について臨地実習前に獲得すべき知識項目をまとめた。
2.実習オリエンテーション資料の作成	2022年4月～	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目、3年次配当、必修3単位）のオリエンテーションにおいて、円滑な実習進行のための資料作成を行った。
3.実習対象施設への打ち合わせ資料作成	2020年7月～	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ（急性期）」（専門科目、3年次配当、必修3単位）において、実習対象施設である関西労災病院の施設担当として、打ち合わせ資料の作成を行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.武庫川女子大学　オープンキャンパス	2022年7月9日・2022年8月12日	武庫川女子大学オープンキャンパスで、看護学生体験イベントとしてAEDの使い方の説明と実施、救急蘇生法の目的の説明を行った。
2.武庫川女子大学　国家試験対策委員	2022年4月～現在	武庫川女子大学において国試模試の運営サポートや、学習支援のための面談を行った。
3.武庫川女子大学　学生委員	2020年4月～2020年12月	武庫川女子大学において学生行事の円滑な運営支援、コロナ禍の学生の心身サポートのための意見集約を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.精神保健福祉士登録	2017年4月1日	
2.保健師免許	2017年4月1日	
3.看護師免許	2017年4月1日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.研究支援員制度の活用	2022年10月～現在	武庫川女子大学研究支援員制度により、研究業務の支援を得ている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2.クリニカルスキルラボプロジェクトへの参加	2022年4月～現在	武庫川女子大学クリニカルスキルラボプロジェクトに参加している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術時の頭低位に対する体位固定方法の検討	単	2017年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻（修士論文）	ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術（以下RALP）で効果的に体圧分散できる体位固定方法について示唆を得ることを目的に、3件のda Vinci導入施設で手術室看護師、泌尿器科医が被験者5名に対してRALP時の体位固定を再現し右肩甲骨部、仙骨部にかかる圧力を頭低位後15分間測定した。30秒・15分後の圧力から、施設、固定器具等による比較を行い、圧力分布図により固定器具による圧分布の特徴を評価した。
3 学術論文				
1.ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術時の頭低位に対する体位固定方法の検討	単	2021年3月	日本手術医学会誌 42巻1号102-104	藤田安沙貴、梅下浩司、南正人 健常成人男性5名を対象にロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術(RALP)時の体位固定を再現し、大面積用圧力分布測定システムBIG-MATを用いて右肩甲骨部、仙骨部にかかる圧力を測定した。その際、RALP時の固定器具としてはピンクパッドかマジック・ベッドが用いられた。肩甲骨部の平均圧力は頭低位後30秒経過時、15分経過時とも、マジック・ベッド群の方がピンクパッド群に比べて有意に高かった。このことから肩部の除圧においてはピンクパッドの方がより効果的であると考えられた。一方、仙骨部については頭低位後30秒経過時にはピンクパッド群の方が有意に圧が高かったが、頭低位後15分経過時には両群間で有意差は認められなかった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：全て 共同研究者：藤田安沙貴、梅下浩司、南正人
2.成人看護学実習における手術見学で看護学生が感じる困難と支援方法についての検討	単	2017年11月	日本手術医学会誌 38巻4号331-333	成人看護学実習を行った看護系大学4年生51名を対象に、手術室環境に感じる困難について独自に作成した質問紙を用いて調査を行った。回答のあった45名のデータを分析した結果、手術見学を1回以上経験した者は35名、1回も経験できなかった者は9名であった。手術見学をしていて手術室が「寒い」・「少し寒い」と感じたのは15名で、うち5名は体調が悪くなった。「気になったにおいがある」と感じたのは12名で、「電気メス使用時のにおい」と回答したものが8名と多く、うち5名は体調が悪くなった。「人体に有害そうなにおい」と回答した1名も気分が悪くなった。自由記述では、「手術室でのふるまい方が分からない」「もっとよく手術を見たい」等の意見がきかれた。 本人担当部分：データ収集、方法に関する検討、指導 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共同研究者：伊藤千佳子、川崎花音、平野有彩季、藤田安沙貴、梅下浩司
3.ATP+AMPを指標とした下部消化管内視鏡チャンネル内の汚染と長期間の清浄度評価	単	2017年11月	日本手術医学会誌 38巻4号355-357	下部消化管内視鏡（以下、スコープ）チャンネル内の患者使用直後と洗浄消毒後のATP＋AMP量を測定し、汚染状況の把握と洗浄消毒後の清浄度を評価した。また11本のスコープについて、洗浄消毒後ATP＋AMP量を8か月間（総測定スコープ163本）測定し、残留基準値を設定した。スコープ使用直後と洗浄消毒後のATP＋AMP量は、使用直後に比べて洗浄消毒後は有意に低下した。測定スコープ計163本（約8か月）においてATP＋AMP量の平均値は10.2RLU、標準偏差は9.7RLUであった。 本人担当部分：データ収集に関する検討、指導 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共同研究者：平野有彩季、川崎花音、伊藤千佳子、伏見了、岡本昇、中田精三、大迫しのぶ、藤田安沙貴、梅下浩司
4.手術看護認定看護師の考える手術看護の	単	2016年8月	日本手術医学会誌 37巻3号 216-218	手術看護認定看護師を対象に、手術看護のやりがいについて量的な比較検討を通して明らかにすることを目的に手術看護認定看護師

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
やりがいについて				100名を対象に無記名自記式質問紙を用いた郵送調査を行った。想定される場面43項目について、自身と対象者が考える新人看護師のやりがいを感じる程度では有意差があった。場面掲示した場合のやりがいについては「チームで協働しているという実感があった時」が最も平均値が高かった。手術看護は新人看護師にとってやりがいを感じるまでに時間がかかるが認定看護師からすれば病棟看護と同じぐらいやりがいのあるものであり、中でも患者との関係における達成感とチーム医療が活かしやすい環境は特に影響することが示唆された。また病棟経験の有無や看護資格取得年数、認定看護師資格取得年数によって、重きを置くやりがいが変化することもわかった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：全て 共同研究者：藤田安沙貴、師岡友紀、梅下浩司
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術時の頭低位に対する体位固定方法の検討	単	2017年10月2日	日本手術医学会総会第39回（東京都）	藤田安沙貴、梅下浩司、南正人 健常成人男性5名を対象にロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術(RALP)時の体位固定を再現し、大面積用圧力分布測定システムBIG-MATを用いて右肩甲骨部、仙骨部にかかる圧力を測定した。その際、RALP時の固定器具としてはピンクパッドかマジック・ベッドが用いられた。肩甲骨部の平均圧力は頭低位後30秒経過時、15分経過時とも、マジック・ベッド群の方がピンクパッド群に比べて有意に高かった。このことから肩部の除圧においてはピンクパッドの方がより効果的であると考えられた。一方、仙骨部については頭低位後30秒経過時にはピンクパッド群の方が有意に圧が高かったが、頭低位後15分経過時には両群間で有意差は認められなかった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：全て 共同研究者：藤田安沙貴、梅下浩司、南正人
2.ATP+AMPを指標とした下部消化管内視鏡チャンネル内の汚染と長期間の清浄度評価	単	2016年11月	日本手術医学会総会第38回（沖縄県）	下部消化管内視鏡（以下、スコープ）チャンネル内の患者使用直後と洗浄消毒後のATP＋AMP量を測定し、汚染状況の把握と洗浄消毒後の清浄度を評価した。また11本のスコープについて、洗浄消毒後ATP＋AMP量を8か月間（総測定スコープ163本）測定し、残留基準値を設定した。スコープ使用直後と洗浄消毒後のATP＋AMP量は、使用直後に比べて洗浄消毒後は有意に低下した。測定スコープ計163本（約8か月）においてATP＋AMP量の平均値は10.2RLU、標準偏差は9.7RLUであった。 本人担当部分：データ収集に関する検討、指導 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共同研究者：平野有彩季、川崎花音、伊藤千佳子、伏見了、岡本昇、中田精三、大迫しのぶ、藤田安沙貴、梅下浩司
3.成人看護学実習における手術見学で看護学生が感じる困難と支援方法についての検討	単	2016年11月	日本手術医学会総会第38回（沖縄県）	成人看護学実習を行った看護系大学4年生51名を対象に、手術室環境に感じる困難について独自に作成した質問紙を用いて調査を行った。回答のあった45名のデータを分析した結果、手術見学を1回以上経験した者は35名、1回も経験できなかった者は9名であった。手術見学をしていて手術室が「寒い」・「少し寒い」と感じたのは15名で、うち5名は体調が悪くなった。「気になったにおいがある」と感じたのは12名で、「電気メス使用時のにおい」と回答したものが8名と多く、うち5名は体調が悪くなった。「人体に有害そうなにおい」と回答した1名も気分が悪くなった。自由記述では、「手術室でのふるまい方が分からない」「もっとよく手術を見たい」等の意見がきかれた。 本人担当部分：データ収集、方法に関する検討、指導 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共同研究者：伊藤千佳子、川崎花音、平野有彩季、藤田安沙貴、梅下浩司

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
4.手術看護認定看護師の考える手術看護のやりがいについて	単	2015年10月2日	日本手術医学会総会第37回（大阪市）	手術看護認定看護師を対象に、手術看護のやりがいについて量的な比較検討を通して明らかにすることを目的に手術看護認定看護師100名を対象に無記名自記式質問紙を用いた郵送調査を行った。想定される場面43項目について、自身と対象者が考える新人看護師のやりがいを感じる程度では有意差があった。場面掲示した場合のやりがいについては「チームで協働しているという実感があった時」が最も平均値が高かった。手術看護は新人看護師にとってやりがいを感じるまでに時間がかかるが認定看護師からすれば病棟看護と同じぐらいやりがいのあるものであり、中でも患者との関係における達成感とチーム医療が活かしやすい環境は特に影響することが示唆された。また病棟経験の有無や看護資格取得年数、認定看護師資格取得年数によって、重きを置くやりがいが変化することもわかった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：全て 共同研究者：藤田安沙貴、師岡友紀、梅下浩司
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」	単	2022年8月1日～2024年3月31日	テーマ：「看護学生の看護職者に対するコミュニケーションにおける現状と課題」助成金：100千円	臨地実習中である看護学生の看護職者とのコミュニケーションにおける現状や課題について調査を行う。 共同研究者：藤田安沙貴（研究代表者）、師岡友紀

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年2月1日～2022年8月19日	西宮市保健所業務支援活動